

部門・会場

日本画／洋画・版画／

彫刻・立体造形／工芸・グラフィックD

〈高田城址公園オーレンプラザ〉

書道／写真 〈ミユゼ雪小町あすとぴあ高田五階〉

期日

令和五年 十月一日〈日〉九日〈月・祝〉

十時～十八時
〈最終日は十六時〉



上越市美術展  52nd

市展

搬入

九月十九日〈火〉日本画／洋画・版画／

彫刻・立体造形／工芸・グラフィックD

九月二十日〈水〉書道／写真 各部門共 十時～十九時まで

審査 九月二十二日〈土・祝〉十四時

事務局 上越市教育委員会 社会教育課 ☎〇二五―五四五―九二四五

主催 上越市



講評

■ 日本画部門

日展特別会員 市原 義之

昨年より少し点数減となったのが残念ですが真摯な作品に大変好感が持てました。優秀賞の「ガクアジサイ」は大胆な構図で色彩も美しく、リズム感を感じる秀作でした。奨励賞「西山春霞」は強い線に裏打ちされた、面白い構図が魅力的です。ただ上部の空部分の仕事が他の部分と比べて足りず、少し淡泊になっただけなのが残念です。

佳作「植田、にぎわう。」は作者の気持ちがよく表れています。技術的には少し雑なところもありますが、素直な自然への喜びを感じます。佳作「錦秋の半月峡」は技術に裏打ちされた力強い筆致、構成を感じます。佳作「城址の花」は大変技術もあり、色彩も美しく力作です。惜しいのは構図です。手前の花々も背景も全てが右下がり、少しバランス感に欠けるところが気になりました。他にも惜しい力作が多々ありましたが、皆様の次作に期待したいと思います。画面での説明が多くなり、自分の物語を見せて表現するより、感じてもらう表現を目指して下さい。見せるより、感じてもらう！そして、より描く事が好きになって下さい。

■ 洋画・版画部門

美術評論家連盟会員、屋外彫刻調査保存研究会運営委員 藤嶋 俊會

新潟県は日本でも美術が盛んな県といってよいでしょう。それはおそらく豊かな風土があるからです。豊かな風土は文化を大事にするだけでなく、人情を育てます。出品目録を見て、結構高齢者が頑張っているのに驚きました。人生百年と言われる由縁です。是非、市美術展を盛り上げてください。

さて、今回の市展賞は内山富佐子さんの「女たち」です。人物画は難しい。特に複数の人物の表情を描かなければならないからです。三人の女性の微妙な心理を手や身振りで表す、ともすると芝居がかってしまいわざとらしくなります。それも考慮しながら真ん中の女性の無表情の顔が効果を發揮しています。色彩や画面の構成に苦勞した痕跡があつて、それがかえって画面に深みを与えていると思います。

次に、優秀賞の篠原真知子さんの「希望」は、色彩で一つの観念を表す抽象画です。暗部から炎のような明るい形が立ち上がる様を描いています。熱のような画面です。それに対して塚田正夫さんの「路地」は、路地裏ともいべき細いビルの谷間から見える風景を描いています。色彩はなくモノクロームで、厚塗りの画面です。陽の当たらない裏側でも人の気配があります。

奨励賞では、まず朝日洋子さんの「君と過す」が目にとまりました。黒猫と小間物がテーブル上に同居している画面です。同じく奨励賞、米持桂子さんの「明日へ向かって」はオーソドックスな人物画ですが、顔は正面向きに、腰から下は横向きにして人体にひねりを取り入れて観念を力強く表そうとしています。

なお、新潟日報美術振興賞は深井穂乃さんの「選択」です。高校生らしい素直な感覚が出ています。子どもの顔を大きくとらえて、左目の瞳に飛行機、右目の瞳に飛ぶ鳥が映る様を描いて、絵を見る者にどちららを選ぶか問いかけています。若さゆえの観念的な思考と描写力が上手く絡んで見る人を驚かせます。

■彫刻・立体造形部門

国画会会員、愛知県立芸術大学名誉教授 大塚 道男

芸術というものを思うとき、高所から見るとは、また、制作出来るものでもなく、一つ一つの小さな集合体が展開し、結果として人々に何らかの心の動を誘発するのではないのでしょうか？市民展は各部門で内容・応募数などに違いがあり、すべての制作の動機は、描く、彫る、刻む、書くなど方法手段として異なりますが、未熟な自己表現から時を掛け、作品として成立するものがあり、唯一無二の存在となると思います。ヒトの初源の営みがそこにあります。少なからずコミュニケーションへと続くものと思っております。

今回の応募作品は、それぞれに表現する意図と内容があり、入選と評価させて頂きました。七点の中で「森藪幽光」は、素材への係わりが特質し、タマムシのかすかな光が集まり、大きな存在となり市展賞として評価いたしました。佳作として、「麗しき妄想」は、作品の読みときが楽しく鑑賞者の想像力が試される作品と評価しました。特に技術の向上が表現を一段と深めたと思われる「信」は彫りの密度と共に見るものを引き込む力があると感じます。長く残る作品です。「折加美」23「みちやダメ！」は、今後の可能性と展開を楽しみにしています。「香箱座り」は数多く制作することにより造形力を深められると思います。「パトロール」と「ふくふく」の二点は、木彫作品として彫り込みを深め、フォルムの追求をして下さい。楽しい内容が一段と輝きます。

審査の折、高田の街を小一時間ほど散策し、思いもよらず岩野勇三先生の作品エリア・ハス池沿いの十六基のブロンズ作品群に出会えたことは、望外の時を頂いた思いでした。今回彫刻・立体造形部門に出品された方々の身近にこのような優れた作品があることは、制作者の皆様の何らかの問いに、制作のつまづきにヒントを与えて下さると思います。市民の方々のかけがえのない宝と根があると思います。制作に親しみ、没入する時をぜひお持ち下さい。

■工芸・グラフィックデザイン部門

長岡造形大学造形学部美術・工芸学科准教授、日本鍍金家協会会員 長谷川 克義

昨年に引き続き、金工や陶芸などの工芸領域と、多種多様なグラフィックデザイン領域の応募作品について、自身の経験と価値観を持って審査をさせて頂きました。

奨励賞は、細井一貞さんの作品「inter action」を選出しました。滲み込みや垂らし込みの技法でインクを流した方形を画面上で配置し、相互に作用される空間を感じさせる作品でした。また、透明感のある表層も発色を手助けして効果的だったと感じています。

佳作には、八木久美子さんの「高田城三重櫓と夜桜」という作品を選出しました。彫金技法によるもので、上越高田のシンボルである三重櫓を丁寧に打ち出しています。色合いも夜の雰囲気を出していました。

入賞とはなりませんでしたが、吉田蓮さんの「ボタニーペインティング融合」は蓮の葉などの自然物を利用し、色彩も多層に感じられた作品でした。バック部分の構成をより検討すればもっと効果的な印象を与えられたでしょう。柳澤のりさんの「記憶相室」は、インクによる点描作品でしたが、とても緻密な印象を受けました。しかし、若干コントラストの部分で弱さを感じるのが否めません。今後は他の手法を併用することで、作品の幅が広がるのではないかと期待しています。中島晶子さんの「ある秋の日」は、色合いや構成に手慣れた感が有り安心できる作品でしたが、より細かい部分の精度を上げるとより際立つ作品に仕上がると思います。また、額装すると変化が起きるかもしれません。今回の応募点数は13点と残念ながら前年度よりも少なくなりました。制作をする、作品を創るということは、その環境をどう整えるかということになります。特に工芸ではその整備は難しいことかもしれませんが、今回出品された方は継続してください。また、今何か作品を制作している方は、どんなチャレンジして自分を表現することを楽しんで欲しいと思います。そして、公募展は他者に観てもらおう喜びを味わえるチャンス場なのです。次回、より多くの作品が出品されることを願います。

書道部門

跡見学園女子大学文学部教授、全国大学書道学会会長 横田 恭三

文化は平和な時代にこそ発展するも、そこには人々のたゆまない努力が必要です。こうした中で、本展覧会が半世紀を超えて継続されてきたことは誠に敬服に値します。

今回、五十三点の出品作を拝見しまして、いくつか感じたことがあります。一つは臨書と創作の作品をどのように評価するかという問題です。臨書は絵画でいえばデッサンのようなもの、最終目標である創作のための土台作りと言えます。それを同列に審査することの難しさを感じました。

作品として仕上げるためには、いくつか念頭に置く必要があります。文字をどのようにデフォルムするか、それをどのようにまとめるか、つまり章法です。作品を制作する際にはあらゆる要素を考えながら、変化と統一の中に落とし込まなければなりません。行草作品は変化に勝り、篆書や隸書作品は統一に勝るといえます。変化には線の強弱・太細、運筆の遅速、文字の大小などがあり、また統一には用筆に一定のリズムや安定した造形感覚、それに余白の扱いなどが求められます。

これらの要素を学ぶには、日ごろの臨書が重要といえます。明末清初の王鐸は二王を学び「一日臨書し、一日人の求めに応じる」生活を送りましたし、石鼓文を生涯学んだ呉昌碩も臨書を重視した結果です。我々は「古人の足跡（完成した書）を求めるのではなく、古人が求めたところ（学びの過程）を求める」ことが重要に思います。つまり、古典の臨書を創作の糧とする姿勢です。

今回は中学生から熟年の方まで幅広く応募されたとのこと。完成度の高い作品も多く見受けられ、審査に苦しみ場面もありました。市展賞は七言二句を对联風に仕立てた行書で、変化と統一のバランスがきわめて良く、優秀賞は整然とした字間や行間を構築するために、隸書の字形に工夫を凝らしたところがみごとです。このほか、入賞した作品は、変化と統一に優れていただけでなく、用具用材（紙・墨）にも工夫が見られたことを付け加えておきます。

写真部門

全日本写真連盟副会長、日本写真家協会正会員 榎並 悦子

上越市美術展覧会にはどのような作品が集まっているのか、とても楽しみにしておりました。審査に向かう車中、今年は7歳から94歳までの応募があつたと伺い、年齢層の広さに、市民のみなさんの身近にあり、愛されている展覧会であることを確信いたしました。

市展賞は新井浩樹さんの「残し柿」に決まりました。雪景色の中に赤い実を付けた柿の木が一本。それをめがけて飛んできたカラスの羽ばたきを絶妙なタイミングとバランスでとらえています。正方形の比率で無駄な空間を排除したこともよかったですと思います。またプリント用紙も画用紙調のマット系を選ばれたことで作品内容とよくマッチしていました。

優秀賞は佐藤忠博さんの「お出かけ」です。振袖姿でハンドルを握る女性のなんと楽しそうなこと！車に手をかけてその女性を見守っている男性との組合せが物語をさらに深くしています。演出のようですがこの切り撮りが素晴らしく、見る側が空想を働かせる写真となっているところも興味深いと思います。

奨励賞は6作品です。「雨滴」は蓮の花びらにたまった雨水が、雫となって落ちてゆくところをとらえています。よく見ると水滴の中にも蓮が映り込んでおり、繊細かつ美しさの際立った作品です。「親切な看板さん」は案内板と生徒さんの組合せですが、そのユニークな視点がひとときわ目を引きました。作者は高校生でした。今後が楽しみです。奨励賞に選ばれた他の4作品も作者のねらいがはっきりしており、確かな技術を感じさせるものでした。

新潟日報美術振興賞「火祭り」の作者は13歳。さいの神行事をとらえた作品ですが、松明からはぜる火の粉を臨場感たっぷりにとらえられています。惜しくも選外となった作品にも目を引くものが多数ありましたが、詰め込みすぎて主題が曖昧になってしまふ残念に思うものが多くありました。写真は引き算とよくいわれます。時には思い切ったトリミングをして視点をはっきりさせることも大切だと思えます。

デジタル化の発展普及により、写真を取り巻く世界も大きく変化を続けています。ここ最近では、画像生成AIによる作品が懸念されておりますが、今回の市展応募作品を拝見する限り、それは杞憂だと安堵させるほどに写真を撮る楽しさ、発見の驚きを伝えてくれる作品がたくさんありました。写真の基本は今後も変わることはないでしょう。これからも市民のみなさんが、ご自身の感動や発見を写真にとらえ、どしどし応募されて、写真の楽しさを伝えて下さいますことを願っております。



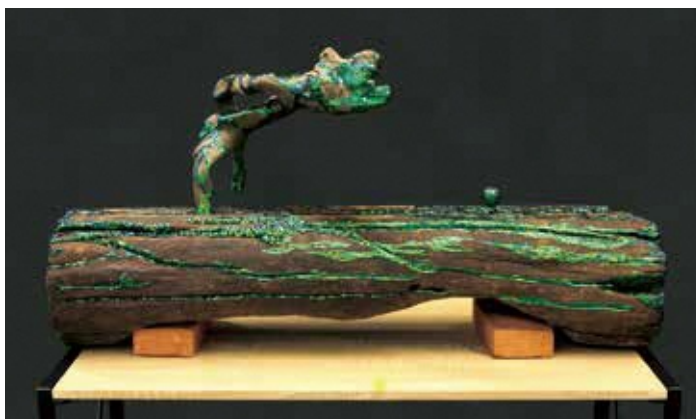
「女たち」内山 富佐子



「雪霽独登南楼」東山 翠華



「残し柿」新井 浩樹



「森蘚幽光」沖田 渉

優秀賞

日本画部門

「ガクアジサイ」 佐藤裕子



洋画・版画部門

「希望」 篠原真知子



書道部門

「蘇東坡詩」 早坂彩華



写真部門

「路地」 塚田正夫



「お出かけ」 佐藤 忠博

奨励賞

日本画部門



「西山春霞」宮川 みゆき

洋画・版画部門



「君と過す」朝日 洋子



「お隣りさん」南澤 静子



「明日へ向かって」米持 桂子
「彼女の部屋」風間 史織



奨励賞

洋画・版画部門



「癒やしの刻の中で」石平 マリ子



「再会に木洩れ日の華ふる」水口 昭子



「北の番屋」細井 一貞

工芸・グラフィックデザイン部門

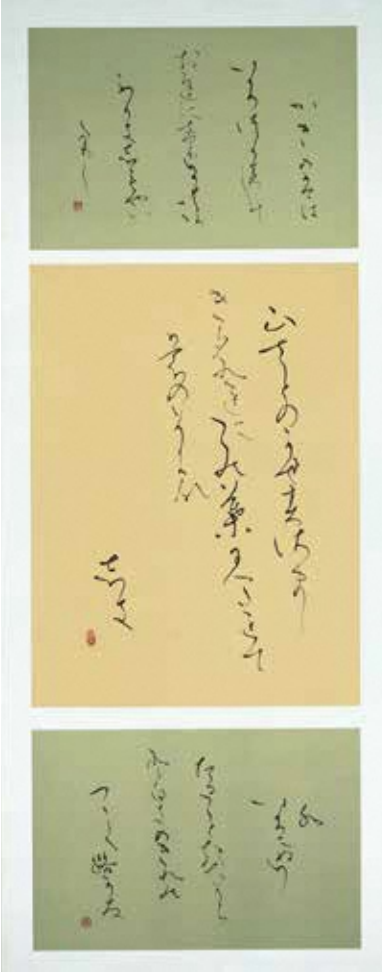


「interaction」細井 一貞

書道部門



「張継詩 楓橋夜泊」吉崎 星桜



「山里の風」星野 美光



「親切な看板さん」 高橋 レオン



「swing by」 山崎 俊



「雨滴」 関川 雅夫



「舞台化粧」 山田 薫



「小さな意志」 松木 章



「夏休み」 相澤 益行

洋画・版画部門



「選択」 深井 穂乃

書道部門



「春の野」 加藤 彩光

写真部門



「火祭り」 池内 伊舞

出品目録

日本画部門

1 浅き春	優秀賞	一点	清水敏之
2 静寂	奨励賞	一点	橋爪蘭山
3 花菖蒲	佳作	三点	小林光夫
4 植田、にぎわう。	佳作		鷲澤千恵
5 憧れの檜ヶ岳	佳作		高島春陽
6 鉄砲百合のなかまたち	佳作		浅井悠子
7 郷愁	奨励賞		矢澤紫峰
8 西山春霞	奨励賞		宮川みゆき
9 草枯	奨励賞		谷口紀子
10 錦秋の半月峡	佳作		川村芳嶺
11 奮起	佳作		宮越倫瑛
12 鏡田	佳作		高橋一興
13 厳冬の荒波	佳作		高島春陽
14 ガクアジサイ	優秀賞		佐藤裕子
15 紫陽花の影で	優秀賞		高橋一興
16 想い出	佳作		金井靖夫
17 「月に兎」の神話	佳作		小林萌
18 城址の花	佳作		森山恵子
19 四角豆	佳作		佐藤定子
20 オーレンブラザ南面図	無鑑査		池田幸一
21 自画像(冬休みの終る日)	無鑑査		丸山柁子
22 朝顔咲く	無鑑査		北嶋祐子
23 国分寺の赤い実	運宮委員		小林充也
24 薔薇と少女	運宮委員		洞谷亜里佐
25 頂上への道	無鑑査		永野ヒサ子
26 ワタスゲの咲く頃	無鑑査		池田美和

洋画・版画部門

1 春(ごご芽がのびました)	市展賞	一点	鈴木けさみ
2 暑い、熱い、ねぶたの祭り	優秀賞	二点	小林正隆
3 千曲川界限	奨励賞	七点	吉井一男
4 おるすばん	佳作	十一	梨本萌絵
5 水辺の草	佳作	十一	和田秀樹
6 苗名滝	佳作	十一	山岸朋子
7 夏へよいいドン!	佳作	十一	斉藤淑子
8 六月の庭	佳作	十一	久保田セツ子
9 安らぐ	佳作	十一	武田一郎
10 春爛漫高田城址公園	佳作	十一	伊東邦啓
11 2才です。	佳作	十一	小林カズエ
12 水面と空	佳作	十一	古澤知子
13 峡谷のある光景	佳作	十一	池亀知守
14 北のベニス冬の黄昏	佳作	十一	賀来奈々
15 夢を見よ	佳作	十一	大嶋奈々
16 妙高春景	佳作	十一	中山和子
17 森かげの茅葺き	佳作	十一	松澤和広
18 柿崎の夕日	佳作	十一	長井芙佐子
19 烏帽子岳遠望	佳作	十一	松澤和広
20 羽黒山への道	佳作	十一	池田良一
21 ぶどうを収穫する人達	佳作	十一	太田良一
22 上高地より穂高を望む	佳作	十一	伊東邦啓
23 ニヤーにい?	佳作	十一	羽深三恵
24 二人と猫	佳作	十一	小池三昇
25 コロナの中の客	佳作	十一	独林幸一
26 肝ったま母さん	佳作	十一	小池三昇
27 岩を喰らふ	佳作	十一	池上秀敏

28 四百年の時を刻んで	市展賞	一点	松浦正憲
29 心もよう	市展賞	一点	市川利夫
30 雪に舞う、ネオン酒場の夜	市展賞	一点	小池雅カ
31 願いを	市展賞	一点	梨本ナカ
32 「西風の防波堤」から	市展賞	一点	小池雅カ
33 安らぎ	市展賞	一点	土肥直子
34 冬の漁村	市展賞	一点	野村直昭
35 さよならコルドバ	市展賞	一点	梅澤隆久
36 西遊記	市展賞	一点	高波和久
37 うたかた	市展賞	一点	奥泉泰海
38 砂浜にある	市展賞	一点	梅澤泰海
39 昼のニュータウン	市展賞	一点	佐藤朋子
40 妙高山	市展賞	一点	山岸朋子
41 夕映え(宇宙に想いを馳せる)	市展賞	一点	井上信治
42 六百年の樹魂	市展賞	一点	井上信治
43 こもれび	市展賞	一点	藤田一枝
44 兄弟	市展賞	一点	馬場裕子
45 大雪の上越大通り	市展賞	一点	横田美恵子
46 「頭が良くなりますように」『パクーツ』	市展賞	一点	竹田正勝
47 夜桜にさそわれて・・・	市展賞	一点	羽田文夫
48 通り雨	市展賞	一点	坂詰則夫
49 The Light in You	市展賞	一点	笠原萌々音
50 時計台のある風景	市展賞	一点	金井麗子
51 春空	市展賞	一点	佐藤洋二
52 八十の手習い 色あそび	市展賞	一点	中澤文雄
53 ありがとうピース、安らかに	市展賞	一点	小澤千枝子
54 頸城区名家白田邸	市展賞	一点	町村幸一
55 黒柿(くろがき)に思う	市展賞	一点	池田邦治
56 世界かんがい施設遺産in川上	市展賞	一点	西山忠
57 錦秋。深山の池の畔。	市展賞	一点	岩崎恵子
58 午後	市展賞	一点	織原英雄
59 山粧う(五箇山II)	市展賞	一点	上野瑠莉
60 タイヤル	市展賞	一点	小林敬一
61 隣のおじいさん	市展賞	一点	藤永和男
62 安心できる場所	市展賞	一点	下鳥未
63 さくらが満開	市展賞	一点	酒井晃

64	冬の上高地			京谷雅彦
65	山			小島則子
66	一番奉納頑張って!			沼波紀子
67	上高地			中村栄隆
68	サイネリア			伊藤栄子
69	孫、3つの夢			西脇直行
70	はじめての油絵			星野日花里
71	待春の桜樹	佳作		丸山卓魅
72	涼風の沢			笠原三枝子
73	ウクライナの少女			今井清雄
74	雪豹			平田心音
75	岩			中多俊一
76	「危」老害逆走			佐藤洋二
77	舞う			岩崎ミサヲ
78	そろそろ見納めかな?			野村柳花
79	守る	佳作		藤本柳花
80	鹿島槍ヶ岳			長井陽一
81	思い出の夏			渡辺靖子
82	遠い記憶			折橋修
83	凜として爽涼			大澤幸子
84	寂れた浜小屋	佳作		牛木勝恵
85	彩雲	無鑑査		阿部国子
86	貝の眩やき	無鑑査		鳥原良子
87	波動と遊ぶ	無鑑査		佐藤由帆
88	夏の果			平澤日々記
89	くんくん			博田人美
90	想像	佳作		金子美羽
91	ひまわり			細井一貞
92	邂逅	奨励賞		高橋優羽
93	北の番屋	無鑑査		丸山ひろ子
94	深海	無鑑査		丸山ひろ子
95	山百合	無鑑査		丸山ひろ子
96	思惟の森	無鑑査		丸山ひろ子
97	祈り	無鑑査		丸山ひろ子
98	髪結って、乙女へ・・・	無鑑査		丸山ひろ子
99	ふさふさと	無鑑査		丸山ひろ子
100	彼女の部屋	奨励賞		風間史織
101	動と静			飯塚ミヨ子
102	花のパートイ			竹内空

104	関川のほとり	無鑑査		田村由美
105	タンクのある風景	顧問		筑波進
106	蒼の空間	奨励賞		水口昭子
107	再会に木洩れ日の華ふる	奨励賞		塚田正夫
108	路地	市展賞		内山富佐子
109	女たち	市展賞		内山富佐子
110	希望	奨励賞		米持真知子
111	明日へ向かって	奨励賞		五十嵐桂子
112	居多ヶ浜	運営委員		堀川正
113	cosmic 2023	運営委員		堀川正
114	選択	新潟日報美術振興賞		深井紀夫
115	路上			楠木一久
116	自然と共生			齊川進
117	里の春			見竹美智代
118	三窓の家			相澤益行
119	秋、深まる	奨励賞		池田昌弘
120	癒やしの刻の中で	奨励賞		石平マリ子
121	お隣りさん	奨励賞		南澤静子
122	君と過す	奨励賞		朝日洋子
123	家族	無鑑査		前川正美
124	作品11	無鑑査		関谷昌夫
125	冬・船と工場	無鑑査		小谷龍吉
126	はじける可能性	無鑑査		吉崎正敏
127	陽春	無鑑査		大川満
128	招魂	無鑑査		羽鳥洋子
129	夏の訪れ	無鑑査		石井啓翔

彫刻・立体造形部門

1	信	市展賞		丸山淑
2	森鮮幽光	市展賞		沖田涉
3	折加美123「みちやダメ!」	佳作		梅津幸三
4	麗しき妄想	佳作		佐藤洋二
5	太古の宇宙船7090	運営委員		松尾大介
6	香箱座り			高島凛
7	パトロール			笠間妙子
8	ふくふく			日吉真

工芸・グラフィックデザイン部門

1	ボタニーペインティング	融合		吉田蓮
2	ある秋の日			中島晶子
3	夜明けの棚田			上坂みどり
4	猛			渡辺信行
5	福徳祝図(十二支)	無鑑査		川上貞男
6	Cubic effect	無鑑査		細井一貞
7	interaction	無鑑査		細井一貞
8	高田城三重櫓と夜桜	佳作		八木久美子
9	記憶相室	奨励賞		柳澤のり子
10	私は多趣味なマスクマン			狩野浩和
11	野鳥×リスベクト			狩野浩和
12	蓮模様			小野富美子
13	ボタニーペインティング			吉田富美子
14	碧海	運営委員		金子徹栄
15	白磁壺	運営委員		金子徹栄
16	根来大盆	運営委員		大藏豊彦

書道部門

市展賞 一点
優秀賞 一点
奨励賞 二点
新潟日報美術振興賞 一点
佳作 五点

- 1 木簡(臨書) 井上 桃水
- 2 臨 楽毅論 光明皇后 櫻庭 万理絵
- 3 曹伯啓詩 綿貫 桜弓
- 4 臨 史牆盤 本間 隆太郎
- 5 吳昌碩詩稿 清水 桃華
- 6 枯樹賦 松澤 典里
- 7 臨 孔子廟堂碑 樋口 大輝
- 8 李白詩静夜思 伊藤 笑心
- 9 吳昌碩詩稿臨 永井 美泉
- 10 秋来 早坂 彩華
- 11 臨 道因法師碑 捧 萌々香
- 12 曹全碑 臨書 梅沢 美音
- 13 臨 藤原行成・白氏詩卷 森本 登和
- 14 曹全碑 臨書 坂詰 晴和
- 15 臨 蘇孝慈墓誌銘 小堺 麟太郎
- 16 秋露下曉風號 今井 江秋
- 17 松風閣詩卷 小堺 牙月
- 18 土佐日記より 五十嵐 翠深
- 19 花はいろ人はこころ 堀口大学の詩より 渡辺 翠綾
- 20 臨 戦国縦横家書 石井 翠琉
- 21 臨 鄭文公下碑 竹田 芽衣子
- 22 臨 集字聖教序 石山 慧栞
- 23 臨 争坐位文稿 右近 羽菜
- 24 松風 塚田 萌心
- 25 水鳥 太田 葉光
- 26 漢詩 伊藤 皓生
- 27 山塊 鴨井 朱沾
- 28 漢詩 柳原 柚奈
- 29 司空曙詩 佐藤 言成
- 30 蘭亭序 酒井 由美
- 31 臨 王羲之転佳帖 鈴木 貴与

- 32 映山 古川 紫光
- 33 乙瑛碑 佐藤 靖華
- 34 臨 皇甫誕碑 小林 愛佳
- 35 杜審言詩 大島 蒼枝
- 36 虎耳草 雪の下 無鑑査 竹田 雪洞
- 37 柿の葉 無鑑査 萬羽 眺光
- 38 ことしももう春だ 無鑑査 小林 智峰
- 39 詩経語 無鑑査 佐藤 寶山
- 40 李青蓮詩 無鑑査 伊藤 星詠
- 41 臨 智永真草千字文 金井 梢歩
- 42 山行 保坂 瑞恵
- 43 送史澤之長沙 佳作 三輪 翠雨
- 44 ふるさと 佳作 石川 瑞光
- 45 劉長卿詩 佳作 保坂 稜楓
- 46 散ること 佳作 相羽 多仁子
- 47 題李疑幽居 宮崎 岳雨
- 48 風林の落葉 丸山 香沾
- 49 春の野 加藤 彩光
- 50 張繼詩 楓橋夜泊 奨励賞 吉崎 星桜
- 51 蘇東坡詩 優秀賞 早坂 彩華
- 52 雪霽独登南樓 市展賞 東山 翠華
- 53 山里的風 奨励賞 星野 美光
- 54 空波 佳作 塚田 恵月
- 55 吳蘭雪詩 加納 江環
- 56 王羲之詩 小澤 莉子
- 57 空 大滝 末光
- 58 漢詩 堀井 雪陽
- 59 高浜虚子句 無鑑査 山田 玉榮
- 60 至誠 無鑑査 山口 青菴
- 61 三楽 無鑑査 山口 青菴
- 62 鶴廬 無鑑査 宮崎 萩華
- 63 孫逖詩 無鑑査 横山 星翠
- 64 吉野弘詩「真昼の星」より 無鑑査 石塚 瑞雨
- 65 山吐月志賀高原アスペンにて 運宮委員 押木 秀樹
- 66 一茶の句と墨絵のコラボ 運宮委員 山田 壽雲
- 67 禅語より 無鑑査 柴田 蘭雪
- 68 里の秋 無鑑査 藤田 江扇
- 69 戴昺詩 無鑑査 青柳 江雲
- 70 八木重吉の詩 無鑑査 岡田 凌雲
- 71 七星竹馬友... 無鑑査 岩関 溪水

新潟日報美術振興賞

写真部門

- 72 季節の移ろひ 無鑑査 小山 恒夫
- 73 五言二句 無鑑査 小野塚 典祥
- 74 良寛詩 無鑑査 古澤 星泉
- 75 狩行の詩 無鑑査 大堀 芝沾
- 76 李白詩 無鑑査 細野 江華
- 77 風 無鑑査 宮澤 恵雲
- 78 無量無邊 無鑑査 荻野 耕岳
- 79 思無垢 無鑑査 山崎 流泉
- 80 文同詩歩月 無鑑査 坪木 虹月

市展賞 一点
優秀賞 一点
奨励賞 六點
新潟日報美術振興賞 一点
佳作 十點

- 1 こびりどき 庄山 幸男
- 2 お薬師様へお参りに 岸田 千枝子
- 3 木漏れ日の先 岸田 千枝子
- 4 惜秋 小林 秀行
- 5 バデイ 関川 雅夫
- 6 初体験！お母さんと一緒 鈴木 利一
- 7 春待つや 山川 公平
- 8 緋色！スカートレット!! 大倉 真美子
- 9 高田ごぜんさんが来た 小林 誠也
- 10 攻防 小林 健一郎
- 11 背を丸めて 松井 隆夫
- 12 四年ぶり古代詞舞う 松井 隆夫
- 13 折りのかたち 金子 和博
- 14 待ち人 金子 和博
- 15 将来の夢 金子 和博
- 16 心に残る夏の思い出 縄子 和博
- 17 宵の宴 松本 栄規
- 18 御饌米奉納 松永 栄規
- 19 放列の朝 宮澤 光博
- 20 秋陽 小林 健一郎

21 ママとワッショイ!
22 祭りだあ〜!!
23 二年ぶりの河原
24 沐浴
25 かくれんぼ
26 雪中警女
27 西堀に佇む
28 s w i n g b y
29 親切な看板さん
30 雨滴
31 夏休み
32 火祭り
33 残し柿
34 お出かけ
35 舞台化粧
36 小さな意志
37 たんじょうび
38 吹雪の朝
39 上越にイルカ
40 なんやねん
41 灯り
42 春風駉蕩
43 夕日に染められて
44 目覚めの激流
45 包みこむ まるゝ
46 忘れもの
47 彼の視線
48 S P L A S H
49 令和の静寂
50 姉と弟
51 思いの丈
52 夕陽を浴びて
53 躍動
54 ストリートダンス
55 窓辺
56 豊作のなごり
57 黄葉の流れ
58 楽しいなっ
59 あっ、これ!
60 熱気

新潟日報美術振興賞

飯田慶二
飯田慶二
山川公平
佳作 市村常夫
佳作 倉俣数磨
佳作 佐々木進
奨励賞 山崎俊
奨励賞 高橋レオン
奨励賞 関川雅夫
奨励賞 相澤益行
市展賞 新井浩樹
優秀賞 佐藤忠博
奨励賞 山田薫
奨励賞 松木章
佳作 内木隆一朗
佳作 佐伯正彦
佳作 井ノ山広幸
佳作 高島愼一
佳作 長澤滋子
佳作 高野邦夫
佳作 高野重昭
齊藤重昭
齊藤重昭
丸山恵子
丸山恵子
佐伯正彦
池内加奈子
池内一郎
内田治子
内田富枝
奥田富枝
奥田富枝
池田富求
倉俣数磨
縄井忠一
笠井英司
笠井英司
橋本英典
鳥越宏久
鳥越宏久

61 水田に写る
62 神の庭で育つ
63 南葉山炎上
64 秋空
65 風
66 伝統の技に笑む
67 共同作業
68 抱かれて
69 思わず激写
70 春宵
71 佳き日に
72 祝詞
73 裸婦
74 裸婦
75 視線
76 d u e t (デュエット)
77 ぼく二代目
78 夢の中
79 b y m y s e l f
80 レトロ
81 吹雪のエントランス
82 春華
83 飛翔
84 季節の曲り角
85 炎夏の日 日本海東の間の至福2023
86 帰り仕度
87 真剣奉納
88 ドロ試合
89 大空に舞う
90 冬仕事
91 らんまん
92 槽
93 清水流下
94 終宴
95 夕桜
96 銅たちの終業
97 春の訪れ
98 気嵐に群がる
99 宮古島から親子で初体験
100 極寒の朝

中嶋耕
岡庭永一
岡庭孝子
寺内孝子
寺内孝子
陶山謙一
安原義一
小日向順一
小日向順一
陶山謙一
高橋正人
高橋正人
高藤昭夫
須藤昭夫
須藤昭夫
井ノ山弘幸
横山義信
横山義信
宮森登
宮森登
中川正
中川正
西片正明
渡辺信行
渡辺信行
白川文成
佐々木進
佐藤久治
松縄武彦
松縄武彦
丸山治夫
丸山治夫
杉野健二
武藤史彦
嘉典史彦
小池幹夫

101 お久しぶりだね!
102 小さ女王様
103 還
104 「そうだん」
105 夕映えに浮かぶ
106 勝負!
107 どうせもraisないんでしょ。
108 躍動の美
109 喜びの春を迎えた棚田
110 熱演
111 モンスタ一
112 雨上がりのクロッカス
113 ゴールは近づいてる
114 畑仕事
115 総踊り
116 c o o l (かっこいい)
117 華のペール
118 水龍出現
119 老舗喫茶店の奥さん
120 マヨネーズちょうだい
121 長男入園の頃
122 継ぐ
123 電撃直下
124 雨あがり
125 日なたぼっこ
126 明日は晴れ
127 異空間

無鑑査
運営委員
運営委員
関野敏雄

小池幹夫
山崎俊
相澤正輝
田中正輝
酒井華珠
大坪芳彦
岩崎瑛斗
久保田ユキ
久保田ユキ
山本勝
高野邦夫
内木凛華
前崎史司
野俣昇
野俣昇
野俣昇
鈴木昭代
鈴木昭代
佐藤忠博
前崎史司
森田洋子
木村康司
岡本孝子
岡本孝子
岡本孝子
廣瀬政春
竹田捷幸
藤野正二

第52回上越市美術展覧会 出品点数及び入選点数

部 門		公 募 作 品					無鑑査作品	
		出品者数 (人)	出品点数 (点)	入選点数(点)		出品者数 (人)	出品点数 (点)	
				入賞	佳作			
1	日 本 画	17	19	19	2	3	7	7
2	洋 画 ・ 版 画	109	114	114	11	11	15	15
3	彫 刻 ・ 立 体 造 形	7	7	7	1	1	1	1
4	工芸・グラフィックデザイン	10	13	13	1	1	3	3
5	書 道	52	53	53	5	5	27	27
6	写 真	85	124	124	9	10	3	3
合 計		280	330	330	29	31	56	56

※入賞・佳作は、入選点数の内数

第52回上越市美術展覧会 作品鑑賞会のお知らせ

市展会期中、運営委員による作品鑑賞会を下記のとおり開催します。ぜひ、ご来場ください。

日	時 間	部 門	講師(敬称略)	会 場
10月1日(日)	13:30～14:30	日本画	小林 充也	オーレンプラザ
	14:30～15:30	書道	押木 秀樹	ミュゼ雪小町
10月7日(土)	11:00～12:00	彫刻・立体造形	松尾 大介	オーレンプラザ
	13:30～14:30	工芸・グラフィックデザイン	大藏 豊彦	オーレンプラザ
	14:30～15:30	写真	藤野 正二	ミュゼ雪小町
10月9日(月・祝)	11:00～12:00	洋画・版画	五十嵐 正	オーレンプラザ

〔審査員〕
日展特別会員 市原 義之 (日本画)
美術評論家連盟会員、 屋外彫刻調査保存研究会運営委員 藤嶋 俊會 (洋画・版画)
国画会会員、 愛知県立芸術大学名誉教授 大塚 道男 (彫刻・立体造形)
長岡造形大学造形学部美術工学科准教授 日本鍍金家協会会員 長谷川 克義 (工芸・グラフィックデザイン)
跡見学園女子大学文学部教授、 全国大学書道学会会長 横田 恭二 (書道)
全日本写真連盟副会長、 日本写真家協会正会員 榎並 悦子 (写真)

〔運営委員〕
委員長 洞谷里里佐 (日本画)
副委員長 堀川 紀夫 (洋画・版画)
小林 充也 (日本画)
五十嵐 正 (洋画・版画)
松尾 大介 (彫刻・立体造形)
大藏 豊彦 (工芸・グラフィックデザイン)
齋 期天 (工芸・グラフィックデザイン)
押木 秀樹 (書道)
山田 真一 (書道)
藤野 正二 (写真)
関 敏雄 (写真)
佐藤 勝則 (学識経験者)
筑波 進 (洋画・版画)

表紙デザイン・レイアウト／筑波 進

オウムガイは人間がもっとも美しいと感じるバランスをもち、美しさの象徴といわれています。

本覧会は、そのオウムガイをシンボルマークとして、『市展』の書体、市章の3つをセットとして使用いたします。

